

ISSN 2436 0783

千葉県生物多様性センター 年報 16

令和5年度（2023年4月～2024年3月）



千葉県生物多様性センター
Chiba Biodiversity Center

表紙の写真：生命のにぎわい調査団令和5年度写真コンテストの最優秀作品

「ニホンイタチ」

撮影：井上 茂（四街道市）

【撮影者のコメント】 散歩中に会ったとっても可愛いイタチちゃん。

裏表紙の写真：生命のにぎわい調査団令和5年度写真コンテストの優秀作品

「ニジュウシトリバの仲間」

撮影：望月 政樹（千葉市）

【撮影者のコメント】 この名前のお通り、翅脈が二十四本に枝分かれし、その一本一本が鳥の羽のような形状をしている美しい蛾です。このような翅で飛ぶことができるなんてすごいと思いませんか？

奥付ページの写真：生命のにぎわい調査団令和5年度写真コンテストの生物多様性センター賞及び大島健夫賞受賞作品

生物多様性センター賞

「草みち行進」

撮影：関根 百悠（木更津市）

大島健夫賞

「寒風の哀愁」

撮影：牛村 展子（鴨川市）

はじめに

私たちの暮らしや活動に大きな制約を課していたコロナ禍は明けたのでしょうか。街のにぎわいが戻ったように、当センターの対面行事も元の形に戻りつつあります。とはいえ、一度形を変えた習慣は日々の自然観察のあり様や、人との交流に未だ余韻を残しています。一方、季節の移ろいや生物暦はとどまることを知らず、自然を見る目さえ曇らせなければ楽しみや喜びをもたらしてくれます。

令和 5 年度のセンターの活動は、再び活気を取り戻した保全活動や普及啓発を進めるとともに、前年度末に改訂したレッド・データブック植物・菌類編の広報・普及啓発に始まり、新たな外来種問題としてアカミミガメ対策や、カミキリムシ等の侵入が懸念される生きものへの備えなどに力を注いできました。中でも注目されたのは外来水草のナガエツルノゲイトウです。現在、特定の種について県内全域の分布状況を調査するという、センターの情報管理機能を発揮する取組をはじめています。

外来種対策には分布調査や防除の指導・提言など、専門分野からの働きかけはもちろんのこと、問題の根底にある、「外来種とは知らなかった」「どれがやっかいものか判別がつかない」など普及啓発にも取り組みが必要です。専用のリーフレット作成や、広く外来種問題を解説するハンドブックの全面改訂なども行い、防除を含めた保全事業と普及啓発の両輪で事業を進めています。

希少種の保全については、多くの関係者と協働して一步一步進めています。積み重ねの中で台風や大雨の影響で生息地が一晩で危機に見舞われることもあります。保全を進めるだけでなく、気候変動まで考えて、私たちの暮らしぶりを考えることまで含めて、生物多様性を守り、考える取組を継続してまいります。

令和 6 年 6 月

生物多様性センターの様々な活動



アフリカツメガエル捕獲

千葉市 5/10



第1回生命のにぎわい調査団現地研修会

海の博物館 5/21



カミツキガメ捕獲現地技術指導

佐倉市 6/7



ふなばし環境フェア

船橋市 6/24



御宿町自然観察会

御宿町 6/29



企業ネットワーク勉強会

我孫子市 9/27



市町村研修会
千葉県立中央博物館 10/6



エコメッセ in ちば
幕張メッセ 10/15



第2回生命のにぎわい現地研修会
房総のむら 11/19



房総のヒメコマツ観察会
君津市 1/27



企業と生物多様性セミナー
千葉県立中央博物館 2/21



生命のにぎわい調査フォーラム
千葉県立中央博物館 3/2

千葉県生物多様性センター 年報16 令和5年度

もくじ

はじめに	i
生物多様性センターの様々な活動（写真）	ii
もくじ	iv
I 生物多様性センターの概要	
組織・分掌等	2
令和5年度 活動カレンダー	4
II 令和5年度 主要事業のまとめ	
絶滅危惧種の保護に向けて	6
絶滅の危険性を評価	9
外来生物の脅威から生態系を守る	11
生物多様性情報の収集・管理・提供	14
県民参加型の生物モニタリング調査	15
イベントによる情報発信	18
ウェブサイトによる情報発信	19
刊行物の発行	20
生物多様性サテライトの設置	21
大学との連携	22
企業との連携	23
さまざまな連携活動等	24
開発事業の指導	25
III 令和5年度 他機関への支援活動・研究業績等のまとめ	
他機関への支援活動・研究業績等	27

I

生物多様性センターの概要

組織・分掌等

1 設置の目的

千葉県生物多様性センターは、平成20年3月26日に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図ることを目的に、平成20年4月1日に設置されました。

2 設置場所

生物多様性センターは、千葉県立中央博物館の中に設置されており、中央博物館と連携をしながら業務を行っています。

住所：〒260-8682

千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

電話：043-265-3601

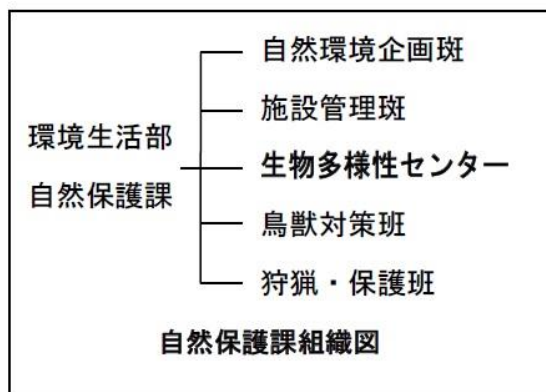
FAX：043-265-3615

e-mail：bdc@mz.pref.chiba.lg.jp

3 組織

生物多様性センターは、右図のとおり千葉県環境生活部自然保護課に属し、下記の分掌にあたっています。

令和6年3月現在の生物多様性センターの職員は6名、会計年度任用職員3名です。



4 主な分掌

生物多様性センターの令和5年度の主な分掌は下記のとおりです。

- ・生物多様性ちば県戦略の推進に関すること。
- ・生物多様性に係る基礎情報の充実・提供に関すること。
- ・生物多様性に係る地域等の取組支援に関すること。
- ・生物多様性に係る環境学習の推進に関すること。
- ・希少野生動植物の保護に関すること。
- ・特定外来生物（鳥獣関係を除く）の対策に関すること。
- ・生物多様性についての情報収集、管理、提供に関すること（シンクタンク機能）。
- ・生物多様性についての教育普及に関すること。
- ・生物多様性の保全・再生・利用のための現場指導に関すること。

5 機能

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」を推進するため、下記の機能を整備していきます。

○生物多様性に関する情報の収集・管理、提供・公開

- ・生物多様性に関する各種情報を収集し、提供します。
- ・千葉県に保有する生物多様性に関する既存情報を整備し、地理情報システム上で一括管理します。
- ・今後新たに得られた情報についても効率的に収集するシステムを構築し、順次整備していきます。
- ・地理情報システム上でデータベース化された情報は、生物多様性の効果的な保全に活かされます。
- ・これらの情報を様々な形式で一般の方から研究者まで広く提供します。

○生物多様性に関する調査研究

生物多様性に関する調査研究を推進し、かつ、モニタリング体制を整備します。そのため、野生動植物の生息・生育状況と経年変化を把握し、地球温暖化等の気候変動や人間活動が生物多様性に与える影響を探り、対策を研究します。

○シンクタンク機能

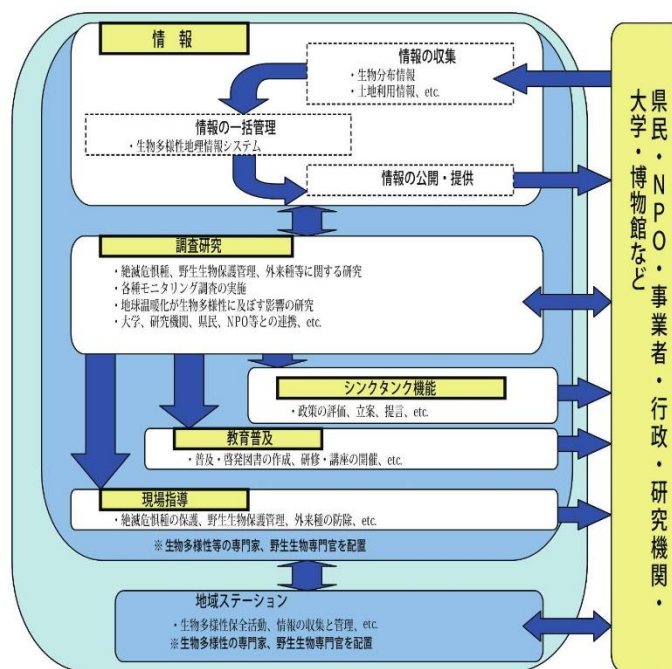
科学的な根拠に基づき、施策の評価、立案、提言を行います。

○生物多様性に関する教育普及

「生物多様性」及び「生物多様性ちば県戦略」の普及・啓発を図るため、各種図書の作成をはじめ、ニュースレターの発行、研修会・講座の開催等を行います。

○生物多様性に関する現場指導

野生動植物の保護管理、生態系の保全・再生、生物多様性を一体的にとらえた地球温暖化対策の推進等、現場に即した指導・助言を行います。



生物多様性センター機能概念図

令和5年度 活動カレンダー(普及啓発・イベント等)

●令和5(2023)年度

- ・ 令和4年度 生命のにぎわい調査団 生物多様性写真展が終了 (5/7まで)
- ・ 令和5年度 生命のにぎわい調査団 現地研修会を海の博物館で開催 (5/21)
- ・ (巡回展) いちかわ環境フェア2023に出展 (6/4)
- ・ (巡回展) 令和5年度環境パネル展<船橋駅前総合窓口センター>にパネル出展 (6/9-6/14)
- ・ (巡回展) 第8回いちほら環境フェスタに出展 (6/10)
- ・ (巡回展) 第25回ふなばし環境フェアに出展 (6/18)
- ・ (巡回展) 令和5年度環境パネル展<船橋市中央図書館>にパネル出展 (6/15-6/21)
- ・ (巡回展) 第26回ふなばし環境フェアに出展 (6/24)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.78を発行 (6/30)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.79を発行 (9/30)
- ・ (巡回展) 第15回かまがや環境フェアに出展 (10/3-10/13)
- ・ 生物多様性に関する市町村職員研修会を千葉県立中央博物館で開催 (10/6)
- ・ (巡回展) エコメッセ2023inちばに出展 (10/15)
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館での第26回NORNAC調査研究・活動事例発表会に参加・発表 (11/3)
- ・ (巡回展) 自然誌フェスターみんなで楽しむ千葉の自然と歴史-に出展 (11/3)
- ・ 令和5年度 生命のにぎわい調査団 現地研修会を房総のむらで開催 (11/19)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.80を発行 (1/15)
- ・ (巡回展) 第21回白井環境フォーラムに出展 (1/19-1/31)
- ・ 第26回企業と生物多様性セミナーを千葉県立中央博物館で開催 (2/21)
- ・ 生命のにぎわい調査フォーラムを千葉県立中央博物館で開催 (3/2)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.81を発行 (3/31)
- ・ 令和5年度 生命のにぎわい調査団 生物多様性写真展(ミニトピックス展)を千葉県立中央博物館で開催 (令和6年3/5-5/6)

II

令和5年度 主要事業のまとめ

絶滅危惧種の保護に向けて

絶滅危惧種対策事業

1 絶滅危惧種対策事業

絶滅の危機にある状況であっても、その原因や危急の度合いは様々です。その中でも特に生息・生育状況が悪化し、積極的な保護がなければ絶滅する可能性が極めて高い種として、シャープゲンゴロウモドキとヒメコマツ（ゴヨウマツ）が挙げられます。

千葉県ではこの2種について、地元自治体、関係NPO、学識経験者、水族館等で構成される保全協議会で検討を行い、「千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画」および「千葉県ヒメコマツ回復計画」を独自に策定しています。平成26年度には、それまでの成果を踏まえた改訂を行い、保護回復に向けた取組を続けています。

○令和5年度の取組

【シャープゲンゴロウモドキ】

シャープゲンゴロウモドキはゲンゴロウモドキ属の水生昆虫で、環境省のレッドリストで絶滅危惧種ⅠA類に選定されている、全国的に絶滅の危険性が高い生きものです。そのため、平成23年4月1日には、環境省により「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲や譲渡等が禁止されました。特に、千葉県に生息している関東型と呼ばれる亜種は、かつては関東地方に広く分布していましたが、今では千葉県のごく一部の地域で生息するのみとなっています。そのため、千葉県では、県レッドリストにおいて本種を最重要保護生物（ランクA）に選定するとともに、保全事業に取り組んでいます。



捕獲されたシャープゲンゴロウモドキ

ます。

令和5年度は、現在の生息地における生息状況のモニタリングを実施しながら、生息環境の維持管理（草刈や水域の維持）を実施しました。また、生息環境の創出を行うべく生息地周辺地域での環境整備など、生息地域と個体数の拡充を進めています。

しかし、令和5年度は9月の大雨によって生息地が大きな被害を受けてしまったため、その復旧作業を進めました。

また、本種の確認個体数は年により大きく異なり、未だ個体群の維持が不安定な状況にあります。そのため、生息環境の整備と並行して、系統保存（由来が混ざらないように、個別に行う飼育）を、鴨川シーワールドの協力を得て継続してきました。平成31年4月に、生息箇所と範囲の拡大を目的として、過去に本種が生息していたことがわかっている場所で生息環境の整備を行い、鴨川シーワールド及び関係NPOによって維持されてきた飼育個体の野外への再導入を行いました。その後、令和5年度まで毎年、卵や新生幼虫が確認され、生活史が自律的に回っていることが確認できています。

そのほか、関係NPOによる生息地のパトロール、地元小学校の観察会、各種会合における回復計画の周知、生息地水源確保のための基礎調査などの活動を行いました。

【ヒメコマツ（ゴヨウマツ）】

ヒメコマツは、東北南部以南の太平洋側（本州・四国・九州）の山地に分布します。最終氷期には広範に分布していたものが、その後の温暖化に伴い局所的に残ったと考えられており、その中でも特に房総丘陵の個体群は、他から孤立した特異な存在であるだけでなく、房総半島の植物相や植生の成立を考える上で重要です。しかし近年、その個体数が急速に減少してしまったため、平成22年3月に千葉県ヒメコマツ回復計画を策定、平成27年3月に改訂し、それに基づいて回復事業に取り組んでいます。

令和5年度は、継続的に実施しているヒメ

絶滅危惧種対策事業



ヒメコマツの苗

コマツ生育状況や繁殖状況のモニタリングを引き続き実施しました。生育状況調査では27個体について調査を行い、うち1個体が枯死していることを確認しました。また今年度は新たに進階（成長して樹高が1.3メートルを超えること）した個体はありませんでしたが、平成27年以降に進階した個体のうち、今年度調査を行ったものについては、いずれも健全に生育していました。また、着果状況を17個体について調査したところ、着果数の平均は99個となり、豊凶は中作でした。

「補強試験」として、平成23年にかつての自生地である清和県民の森への植栽を実施しており、それ以降継続して実施している移植苗周辺の草刈りと生育確認を今年度も行いました。植栽した28個体はほぼ順調に生育していました。シカ食害防止のために設置してあった金網は、苗の生長により食害の心配がほぼなくなったため平成29年度に撤去しましたが、今年度もシカの食害は認められませんでした。

ヒメコマツ系統保存事業の一環として、長期にわたって責任を持ってヒメコマツ苗を植栽管理し、定期的にモニタリングデータを提供できる個人及び団体（企業、学校、NPO、市町村を含む）を「ヒメコマツ系統保存サポーター」として募集する事業を平成27年度から開始しました。平成28年2月に1次募集、平成28年6月から2次募集を行い、平成29年2月までに123の個人及び団体にヒメコマツ苗を配付しました。平成30年3月からは、

新たに個人・団体を問わず、県内在住の方を対象に3次募集を行い、これまでに22の個人及び団体に苗を配付しました。

また令和5年1月27日（土）には、君津市豊英のヒメコマツ植栽試験地で観察会を開催しました。千葉県立中央博物館の尾崎煙雄氏、西内李佳氏に講師をお願いし、現地を管理しているちば千年の森をつくる会の方々に現地を案内していただきました。参加者は19名（ヒメコマツ系統保存サポーター9名、講師2名、ちば千年の森をつくる会2名、自然保護課職員6名）でした。観察会では、試験地でのヒメコマツの生育状況をご覧いただきました。

※シャープゲンゴロウモドキ及びヒメコマツ回復計画についての詳細は、生物多様性センターのウェブサイトをご覧ください。

http://www.bdcchiba.jp/endangered/endang_index.html

絶滅危惧種の保護に向けて

絶滅危惧種対策事業

2 ミヤコタナゴ保護増殖事業

ミヤコタナゴは、湧水を水源とする細流やため池などに生息するコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。かつては関東地方に広く分布していましたが、都市化に伴う生息環境の悪化や本種の生息を脅かす外来種の影響により、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ分布しています。

このような状況から、本種は「種の保存法」に基づく「国内希少野生動植物種」に指定されているほか、「文化財保護法」に基づき「天然記念物」に指定され、保護されています。

生物多様性センターでは、本種の保護増殖を図ることを目的に、生息状況の把握や生息環境の維持ならびに個体群の系統保存等を行っています。



ミヤコタナゴのオス

○令和5年度の取組

令和5年度は、環境省受託事業「希少野生動植物種保護増殖事業(千葉県ミヤコタナゴ)」として、飼育施設での系統保存(由来が混ざらないように、個別に行う飼育)を実施しました。

また環境省の生物多様性保全推進交付金を活用し、「千葉県ミヤコタナゴ保全推進事業」として生息状況調査、生息地における外来種駆除、飼育環境の改善の3事業を実施しました。

生息状況調査事業では、県内で本種の生息地が確認されている茂原市、いすみ市、御宿町、勝浦市においてミヤコタナゴの生息状況調査を行いました。各調査地点ではアメリカザリガニも捕獲されており、ミヤコタナゴやミヤコタナゴの繁殖に必要な二枚貝の捕食が

危惧されています。こういった保全対策を立てていけば良いのか検討するためには、定期的かつ継続的なモニタリングが重要となります。

外来種駆除事業では、茂原市の生息地において外来魚類の駆除を行いました。また茂原市の生息地では、二枚貝類を捕食するアライグマの捕獲も実施しました。今後も継続的に駆除活動を実施し、ミヤコタナゴの生息状況の改善を図っていきます。

再導入・補強準備事業では、県内ミヤコタナゴの関係者や有識者からなる「千葉県ミヤコタナゴ保全協議会」にて検討を行い、再導入・補強計画の素案を作成しました。今後は素案をもとに、具体的な取り組みに向けた検討を進めていきます。

その他、県内の生息地において観察会や視察を実施しました。



現地調査の様子

絶滅の危険性を評価

千葉県レッドデータブックの改訂と追録の発行

1 令和5年度の千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会・部会の開催

千葉県では、県内に生息・生育する野生生物の現状を調査・検討し、保護に配慮する必要がある種に関して、千葉県レッドデータブックを平成10～12年に刊行して以降、千葉県レッドデータブック及び千葉県レッドリストの改訂作業を、概ね5～8年間隔で交互に実施しています。

令和5年度は千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会を1回開催し、植物・菌類編の公開と動物編の改訂作業の開始を報告、追録発行の承認を得ました。また、同検討会内の動物部会を2回開催し、千葉県レッドデータブック及びレッドリスト動物編の改訂に向けて作業を開始しました。

2 植物・菌類編の公開と普及

令和2年度から改訂作業を実施してきた「千葉県レッドデータブック植物・菌類編2023年改訂版」を、2023年3月に発行しました。令和5年度は、本冊子の電子版をホームページに公開し、県内各関係機関や国内の自然系研究機関等に頒布しました。また、本冊子の内容は新聞等で取り上げられたほか、にぎわい調査フォーラム、NORNAC*や講習会等で内容やその意義を紹介しました。

*24ページ参照

3 動物編の改訂作業

これまで千葉県レッドデータブック及びレッドリスト動物編については、平成22年度にはレッドデータブック、平成17年度と平成30年度にレッドリストを改訂しています。

令和5年度からは、3年間の計画で、通算4回目のレッドデータブック改訂作業を実施します。今回の改訂作業では、平成30年度にレッドリストに掲載された種、もしくは新規掲載する種について、評価を見直します。あわせて、平成22年度に発行した「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編2011年改訂版」の改訂作業を実施します。

令和5年度は動物部会を2回開催し、改訂作業のスケジュールや、カテゴリー等の検討、現地調査を行いました。

4 追録第6号の発行

千葉県レッドデータブック追録は、千葉県レッドデータブック、レッドリスト改訂版の発行の合間に発見された保護上重要な生物に関する情報を周知する目的で作成、発行しています。

2024年3月、「千葉県レッドデータブック追録6号」を発行しました。掲載された種は、カテゴリーX（絶滅）からカテゴリーA（最重要保護）に変更となったユキガイ（貝類）、新しく県内から発見されカテゴリーA（最重要保護）として新規追加となったクルマシダ（シダ植物）とドロヒメカワイワタケ（地衣類）の合計3種です。



ユキガイ（撮影：照屋清之介氏）



クルマシダ（撮影：千葉道徳氏）



ドロヒメカワイワタケ（撮影：原田浩氏）

絶滅の危険性を評価

千葉県レッドデータブックの改訂と追録の発行

○千葉県の保護上重要な野生生物 分類群・カテゴリー別掲載種数（令和6年3月現在）

[動物]

分類群	カテゴリー	消息不明・絶滅生物 (X)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	総計	(参考) 情報不足
脊椎動物	哺乳類	3		4	4	6	17	2
	鳥類	20	46	38	33	19	156	
	両生類・爬虫類		6	7	4	6	23	1
	魚類	2	5	9	8	5	29	
脊椎動物 小計		25	57	58	49	36	225	3
無脊椎動物 (昆虫類)	カゲロウ目		2			3	5	
	トンボ目	7	19	13	6	9	54	
	カワゲラ目		1			1	2	
	ゴキブリ目					1	1	
	カマキリ目				1	1	2	1
	バッタ目	1	7	4	3	5	20	4
	ナナフシ目				0	1	1	
	カメムシ目	1	10	5	13	6	35	
	アミメカゲロウ目			1	1		2	
	コウチュウ目	3	50	48	42	15	158	
	ハチ目		6	8	18		32	
	シリアゲムシ目			1	3	1	5	
	ハエ目	6	5	10	4	4	29	
	トビケラ目	1	2	2	5	4	14	
チョウ目(チョウ類)	5	4	9	16	0	34		
チョウ目(ガ類)	2	1	4	7	2	16	3	
無脊椎動物 (昆虫類) 小計		26	107	105	119	53	410	8
無脊椎動物 (昆虫類以外)	クモ類		3	3	2	2	10	
	甲殻類	0	14	3	7	12	36	1
	多足類	3	14	12	7	1	37	
	貝類	17	90	57	28	14	206	
無脊椎動物 (昆虫類以外) 小計		20	121	75	44	29	289	1
合計		71	285	238	212	118	924	12

[植物・菌類]

分類群	カテゴリー	消息不明・絶滅生物 (X)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	消息不明・絶滅生物 (X)	保護参考雑種 (RH)	総計
植物	シダ植物	8	0	41	27	34	10	17	137
	種子植物	53	4	179	237	135	148	13	769
	蘚苔類	14	1	20	30	6	11	0	82
	藻類	10	3	21	8	2	0	0	44
植物 小計		85	8	261	302	177	169	30	1,032
菌類	地衣類	8	0	25	16	11	20	0	80
	大型菌類	0	0	2	9	15	14	0	40
菌類 小計		8	0	27	25	26	34	0	120
合計		93	8	288	327	203	203	30	1,152

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種特別対策事業

県内で急増し、在来の生態系や農作物等へ被害をもたらす外来生物に対応するため、「外来種特別対策事業」としてカミツキガメの防除を継続しています。また、ナガエツルノゲイトウについては、リーフレット等を作成、配布して注意喚起を促し、全県域を対象とした分布調査を2年計画で開始しました。また、種判別の方法を向上するための観察用の標本を作製しました。さらに、ヒアリに対する県の取り組みもご紹介いたします。

今後も引き続き、環境省や地元市町村、県民の皆さまと連携の上、対策に取り組む必要があります。

1 カミツキガメの防除

本種は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、特定外来生物に指定されています。県では平成19年度に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」を策定し、国の確認を受けて、計画的な防除を実施しています。

本種の自然繁殖は印旛沼周辺において確認されています。令和5年度は、5月15日から9月19日にかけて、これまで続けてきた高崎川、鹿島川、西印旛沼等とその周辺の農業水路等において、誘引餌を用いたワナによる捕獲作業を実施しました。

また、鹿島川周辺や高崎川周辺等の農業水路において、主に活動開始初期の5月中旬から6月上旬と、越冬期前の9月中旬から10月下旬にかけて、ワナで水路を塞ぐことによって、移動する個体を捕獲する「水路封鎖による捕獲」の本格的な試行を実施しました。さらに、越冬期（11月から3月）には、泥や横穴に潜っている個体を探して捕獲する、「手探りによる捕獲」を実施しました。

この結果、合計で1,439頭のカミツキガメを捕獲し、継続して防除を実施している場所では捕獲数に減少の傾向がみられました。一方で、河川上流部や農業水路の一部地域において、新たに生息が確認された場所もみられました。

そのほか、一般市民からの通報により地元市町村や警察が緊急的に収容した個体（カミツキガメ生息実態調査支援事業によって市町

村が捕獲したものを含む）は105頭であり、合計で1,544頭のカミツキガメを防除しました。平成19年度以降の合計捕獲頭数は17,723頭となりました。

また、これまでの捕獲結果を基に、改めて個体数推定を行い、令和5年度の印旛沼水系の生息個体数は、中央値で9,123頭（95%信用区間7,530～10,950頭）との結果が得られました（図2参照）。

今回の推定結果も、前回と同様に平成27年度以降、個体数は減少傾向にあるという結果となりましたが、全期間の個体数が全体的に上方に修正されました。これは、前回の推定以降に新たに生息が確認、捕獲された地域があり、その結果が加わったことで、個体数が遡って追加されたためと考えられました。

来年度は、今回の推定結果を踏まえ、専門家による検討会を行い、防除実施計画を改定します。また、引き続き集中的な防除を継続し、根絶に向けた効果的な防除に取り組みます



図1. カミツキガメの成体

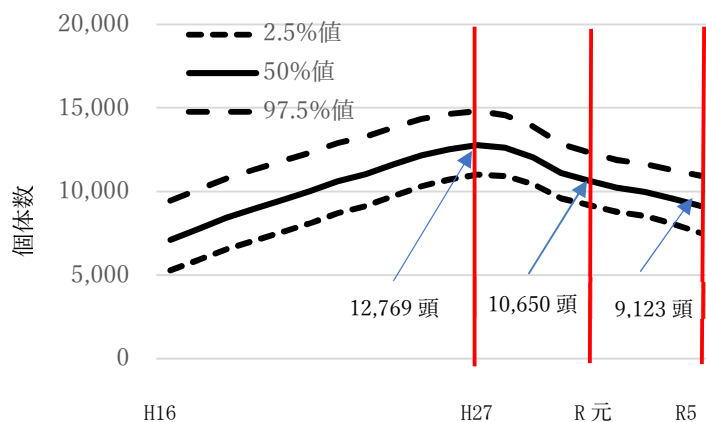


図2. カミツキガメの個体数推定値の推移（防除実施地域単位の合算値）

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種対策特別事業（水生植物）

1 外来水生植物の脅威

千葉県には、人によって持ち込まれた多様な外来の動植物が生息・生育しており、その概要は『千葉県の外来生物リスト 2020年改訂版』として発行され、生態系または人に対する被害等の影響度がまとめられています。中でもナガエツルノゲイトウ等の一部の水生植物は、河川や農業水路、水田等で爆発的に繁茂し、生物多様性への影響だけでなく、水路の通水阻害、農業への被害等の深刻な問題を引き起こしています。

2 外来の水生植物への注意喚起

○注意喚起リーフレット・ポスターの作成

令和5年度は、特定外来生物に指定されている水生植物であるナガエツルノゲイトウの、早期発見と防除を促進するため、リーフレットとポスターを製作しました。『特定外来生物 ナガエツルノゲイトウにご注意ください』と題し、本種の特徴をイラストで示し、生育する場所、除去する際の注意点等について解説した内容です。

○観察用の標本の作成

水生植物の種類の判別能力の向上に資するため、植物を生きた状態に近い姿で観察できるような、アクリル樹脂包埋の標本を作製しました。作成したのはA5版で厚みは5cm、10種類（ナガエツルノゲイトウ・花、同・茎と根、オオバナミズキンバイ・浮葉、ミズヒマワリ、オオフサモ、ナルトサワギク、オオキンケイギク、シロツメクサ、タカサブロウ、シャジクモ）を各3セットです。これらは、生物多様性センターが主催、参加する普及啓発イベント等で展示するほか、農業関係機関等に貸出し、活用を図ります。



アクリル樹脂包埋標本
(ナガエツルノゲイトウ花)

○外来水生植物の講習会での講演

外来の水生植物の防除を促進するため、農林水産部の依頼により、農業事務所や市町村等関係機関を対象に、外来の水生植物講習会で講演をしました。外来種や外来生物法への理解や、外来の水生植物の種類や形態学的特徴、生態への理解を深めていただきました。

3 関係機関と連携した対策

ナガエツルノゲイトウ等外来の水生植物への対策をより効果的に実施するため、関係者相互の情報共有を図ることを目的に「ナガエツルノゲイトウ等対策庁内連絡会議」を設置し、生物多様性センターが事務局を務めています。令和5年度は、9部署からなる構成機関（環境生活部 水質保全課・自然保護課（事務局）・循環型社会推進課、農林水産部 担い手支援課・農地・農村振興課・安全農業推進課・耕地課、県土整備部・河川環境課、専門的知見を有する者・中央博物館 林 紀男）により2回の連絡会議を実施し、各課で実施している事業の情報等を共有しました。この他、農林水産部耕地課や担い手支援課等へ助言等を行いました。

4 分布調査の実施

外来の水生植物の分布情報は、効果的な防除の検討等に不可欠です。生物多様性センターでは、令和5～6年度の2か年計画で、主にナガエツルノゲイトウを対象とした特定外来生物の水生植物の分布状況を、全県域を対象に調査しています。



リーフレット「特定外来生物 ナガエツルノゲイトウにご注意ください」表紙

ヒアリ

ヒアリは南米原産のアリで、攻撃性が強いことが特徴です。世界各地に侵入し問題を起こしていることから、特定外来生物に指定され侵入を警戒していましたが、平成29年6月9日に兵庫県尼崎市で発見されたことを皮切りに18都道府県111事例の発見があり（令和6年3月31日現在）、話題になりました。令和5年度は千葉県において、ヒアリの発見はありませんでした。

日本では、まだヒアリの定着は確認されていません。しかし、確認事例は平成29年度から継続的に続いており、引き続きその侵入には注意が必要です。現在、生物多様性センターでは、港湾課、衛生指導課と連携して侵入に備えた水際対策を千葉港で行いつつ、ヒアリの簡易同定体制を整え、侵入時に迅速な対応がとれるよう備えています。また、千葉県衛生研究所と千葉大学と連携し、東京湾岸のモニタリング調査を定期的実施しています。

県民の皆さまにおかれましては、見慣れないアリを発見した場合は地元市町村にお問い合わせください。ヒアリは特定外来生物に指定されているため、外来生物法の規定により生きたままの移動は禁止されています。生きたまま同定することは困難であり、危険を伴うことから、殺虫剤等で殺した上で特徴を確認してください。

アカミミガメ

アカミミガメは外来生物法の改正に伴い、令和5年6月1日から「条件特定外来生物」に指定され、野外への放出や販売等の行為が規制されました。

県内に生息するアカミミガメを適正に管理し、生態系等に係る被害を防止するため、市町村が実施するアカミミガメ防除体制整備事業に係る経費に対し、「アカミミガメ防除体制事業補助金交付要綱」を制定し、補助を行いました。



ヒアリの特徴

- ・体は赤茶色。
- ・体長 2.5～6 mm の異なるサイズが混在する。
- ・胸部と腹部の間に腹柄節と呼ばれるコブ状の節が 2 つある。
- ・胸の背中側に鋭いトゲがない。
- ・触角を作る節の数が 10 個であり、先端の 2 つが棍棒状に大きくなる。

生物多様性情報の収集・管理・提供

生物多様性地理情報システムの管理運用

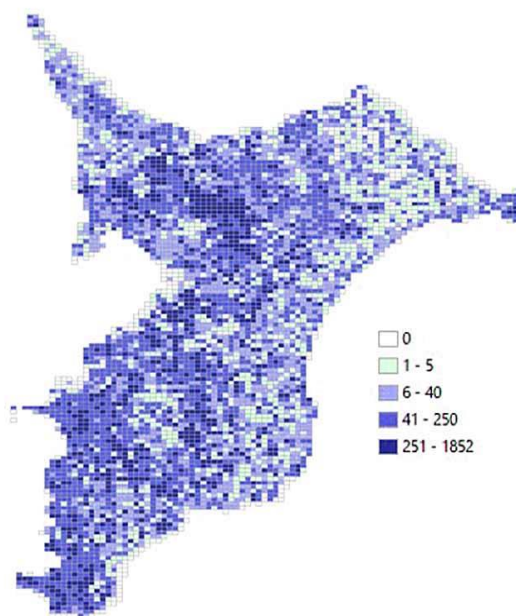
1 事業の概要

生物多様性の保全・再生及び持続的な利用の推進にあたっては、基礎情報としての生物分布情報の整備が欠かせません。しかし、このような生物分布情報は、論文や報告書などの紙媒体で記録されているものが多く、情報の検索には大変な手間がかかります。また、県内の各事業によって作成されたデータベースもいくつか存在しますが、そのデータは各部署で個別に管理されており、閲覧には様々な手続きが必要です。

このような状況を解決するため、生物多様性センターでは平成18年度から県内の生物分布情報を収集・電子化し、データベースとして一元管理する「千葉県生物多様性地理情報システム」(GIS)の構築を進めています。

2 システムの目的

本システムは、県内の生物多様性に関する情報を統合的に管理することを目的としています。本システムを活用することにより、県内における生物分布情報と、土地利用や今後の開発計画、保護指定などの状況を関連させ、今後どのような施策を行っていくかを判断するための情報提供が可能になります。



3 システム構築の概要

千葉県生物多様性地理情報システム(GIS)は、平成18年度に基本設計を終え、生物分布情報を、基本的には3次メッシュ(1:25,000地図を100等分した範囲、約1km²)をベースとして管理しています。システム構築にはESRI社のGISソフトウェアであるArcGISを用い、独自の機能を追加して運用しています。

4 データベースの内容

本システムの基となるデータベースは、県立中央博物館の生物標本データ、自然保護課発行の報告書、各種論文、環境影響評価書等から抽出されたデータに加え、生命のにぎわい調査団員による生物報告もあわせて、約132万件の生物分布情報等で構成されています。

5 システムの活用

本システムを用いて、県内のさまざまな生物の分布図作成や解析が行われています。例として、「生命のにぎわい調査団」の報告に基づく生物分布図の作成や、カミツキガメの生息域把握に活かされています。また、太陽光パネル設置などの開発計画がある地域における希少種の出現記録確認等、外部からの生物分布情報の照会にも随時対応することで、本システムは社会的にも活用されています。

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の普及啓発と推進にあたり、多様な主体により生物多様性の状況をモニタリングする取組が重要なことから、広く県民に呼びかけて、生態系の指標となる生物や外来生物等の身近な生きものの情報提供を受ける事業を行っています。

2 目的

「生命（いのち）のにぎわい調査団」は、野生生物の発見情報を広く一般市民からなる「団員」から報告してもらう調査モニター制度です。県内における生息状況や季節報告（飛来・初鳴き、産卵、植物の開花等）を把握することにより、里山等の身近な生物の分布や経年変化、外来生物の分布拡大、地球温暖化による生物への影響など、生物多様性の変化を把握する仕組みとして、平成20年7月に開始しました。

3 調査団員の状況

県内全域の多くの人に参加してもらえるように、県内の環境フェア等でも広く調査団員の募集を行い、団員数は現在1,810名（令和6年3月末現在）です。

団員の年齢別構成の特徴は、50歳代以上が全体の約6割を占めています。また、18歳未満は約1割、その親世代にあたる30歳代と40歳代が約2割おり、生命のにぎわい調査を次の世代へつなぐための重要な役割を担っています。

4 調査の対象生物

里山、海辺等千葉県が多様な環境で見られる生物のうち、種類の区別がつきやすく、身近に生息・生育している動植物57種を選定し、調査対象生物としています。生息・生育を確認した生物の情報は、当調査団ウェブサイトの報告フォームによる送信、または報告用

紙の郵送・FAX送付により、提供を受けています。

なお、調査対象生物以外の発見報告も受けています。これまでの報告では、鳥類でいえば里山の生態系を象徴するサンバや希少種のオオタカ、サンカノゴイ、タマシギ等がありました。

5 令和5年度の実績

（1）生物報告の件数

生命のにぎわい調査団における生物報告の件数は、令和5年度は6,269件であり、調査団発足から令和5年度末までの14年8ヶ月間の累計件数は、146,804件となりました。

（2）生物報告の分析と情報発信

寄せられた生物報告の分析結果は、発見マップとしての「生きもの分布図」、開花・紅葉・初鳴き・産卵などの「生きもの季節マップ」などとして取りまとめています。

さらに、「生命のにぎわい調査団」ウェブサイトにおいて、情報発信の一環として毎月の生物報告や生きもの分布図、調査対象生物の生態や見分け方、生物多様性に関わる企画等の情報提供を随時行っています。

<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

その他、団員向けの通信、「生命のにぎわい通信」を年4回発行しました（66号～69号）。各号のタイトルは、「分布拡大中の特定外来生物アカボシゴマダラ」「農業・治水や生物多様性の脅威となるナガエツルノゲイトウ」「秋にも見られるハチの仲間」「冬場、カメはどこにいる？」です。さらに古典文学と里山の生き物たちの関わりを分かりやすく記しました。

こののにぎわい通信は、調査団員に配布するほか、生物多様性に関連する研修会や講習会の参加者へも配布しました。

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団



生命（いのち）のにぎわい通信（66-69号）

様々な生物を自分で見つける体験とともに、専門家の解説を聞くことで、より深く海の生物を知る機会になりました。また、房総の海の豊かさ、生き物の美しさや危険さを知る研修となりました。

（3）調査団の研修会等

調査団では、団員の観察技術の向上のために、千葉県の自然や調査対象生物の見つけ方・見分け方を学んで生物報告の正確性を向上させるための現地研修会を実施しています。また、これまでの調査結果の検討などを行う「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しています。



第1回現地研修会 磯観察

①令和5年度の現地研修会

（ア）第1回現地研修会

令和5年5月20日（土）千葉県立中央博物館分館海の博物館の前の磯（勝浦市） 参加者数：38名

「外房の磯で潮だまりの生き物を観察しよう！」と題して、研修会を行いました。当日は少し肌寒く、時折小雨が降る天気でしたが、38名の団員にご参加いただきました。講師に海の博物館の柳さん、立川さんを迎え、海の生き物について解説をしていただきました。海の博物館からほど近い場所には、石の多い海岸や、ヒジキが群生する磯が広がっています。講師による解説の後で、参加者は磯の潮だまりの中や、岩の表面や割れ目をのぞきながら、各自で自由に生物を観察しました。特に参加者からの人気が高かったのは、多様なウミウシ類と危険生物です。参加者からは、今後の活動で気をつけるため、危険生物の実物が見られてよかったとの声がありました。磯観察の後は海の博物館の展示室へ移動し、参加者は先ほどまで実物を観察していた生き物の展示を見つけ、熱心に見学していました。本研修では、

（イ）第2回現地研修会

令和5年11月19日（土）千葉県立房総のむら（栄町） 参加者数：35名

「晩秋の「房総のむら」で里山の生き物を観察しよう！」と題して、県立房総のむらで研修会を行いました。当日は、穏やかな晴天に恵まれ、35名の団員にご参加いただきました。植物学の専門家である房総のむら職員の平田和弘氏を講師に迎え、千葉県の子供からの住居や田畑、雑木林などが再現された園内を散策し、植物や動物、地衣類を探しました。最初に、講師の解説とともに、茶色く枯れた樹木にみられる「ナラ枯れ」と「マツ枯れ」の被害の特徴などを観察しました。水田の水路にはミナミメダカ、斜面には猛毒のトリカブトの花も見られました。上総の農家が再現されたエリアでは、建物の床下の砂地にて、アリジゴク（ウスバカゲロウの幼虫）の巣がたくさん見つかりました。畑では、タヌキの足跡、マツ林ではニホンリスかネズミ類の食べ跡があるマツボックリが見つかり、哺乳類が近くで暮らしていることがわかります。木の手すりを注意深く観察すると、表面に美しい地衣類が観

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団

察できました。本研修は、人の暮らしのすぐ近くにも多様な生き物が暮らしていること、その身近な自然にもナラ枯れのような危機が迫っていることを知る機会となりました。



第2回現地研修会 水田エリアの観察



生命のにぎわい調査フォーラム

②生命のにぎわい調査フォーラム

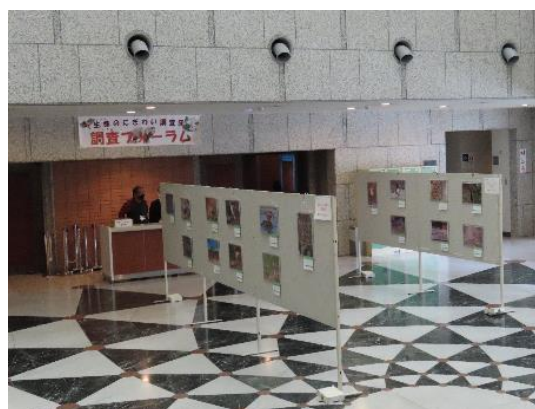
下記内容で生命（いのち）のにぎわい調査フォーラムを実施しました。

令和6年3月2日（土）千葉県立中央博物館講堂 参加者数：51名

[内容]

- ・千葉県レッドデータブック 植物・菌類編 2023年改訂版の紹介（下稲葉 さやか）
- ・外来種をめぐる近年のトピック（村井 貴幸）
- ・生き物調査報告のデータ解析（加賀山 翔一）
- ・団員5名からの「観察事例の紹介」
- ・写真コンテストと表彰式

応募 37 作品からフォーラム参加者の投票審査による上位2点を最優秀賞・優秀賞として選出し(本年報の表紙及び裏表紙に掲載)、その他、生物多様性センター賞、詩人・大島健夫が選ぶ大島賞を表彰しました。



写真コンテストの会場

イベントによる情報発信

生物多様性に関する普及啓発事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性」をより社会に浸透させることを目的に、市内の市町村や企業と協働して、生物多様性に関する巡回展示や巡回講座などの普及啓発活動を行っています。

演、講習会を行いました（講座一覧は27頁参照）。

2 巡回展示

令和5年度は、「ふなばし環境フェア」や「エコmesse2023inちば」等の市町村等が開催する9つの環境関連イベントに出展し、生物多様性に関連する普及啓発活動を実施しました（展示一覧は28頁参照）。展示ブースでは、設置したパネルの解説や刊行物の配布を行うとともに、内容の理解を深める「生命（いのち）のにぎわいクイズ」を実施し、カワセミやキンランなど56種類の千葉県生き物と、アメリカザリガニなど12種類の外来生物と特定外来生物の缶バッジを制作し、クイズ参加の記念品として配布しました。



自然誌フェスタ出展の様子

3 巡回講座

外来種や希少種など、生物多様性をテーマに、市町村や市民団体等からの要望による講

ウェブサイトによる情報発信

生物多様性に関する普及啓発事業

概要

生物多様性センターのウェブサイトは、当センターの取組を多くの方に伝えることを目的に、平成20年5月に開設しました。

記事の追加・更新・修正などを月に2～3回程度のペースで行い、外部に向けて情報発信を続けています。アクセス数は月3万件以上に上り、特にレッドデータブックやニュースレターなど、当センターの出版物を無料でダウンロードできるページが多く閲覧されて

います。

令和3年度には、千葉県生物多様性センターのウェブサイトをリニューアルしています。さらに令和4年度は、調査団専用ページに写真コンテストに応募された作品を公開する写真集ページを設けました。令和5年度も引き続き、調査団員から寄せられた生き物報告の取りまとめ結果、発行した刊行物や環境イベント出展のお知らせ等を掲載しました。



リニューアルされた千葉県生物多様性センターのウェブページ（ホーム画面）

URL <https://www.bdcchiba.jp/>

刊行物の発行

生物多様性に関する普及啓発事業

生物多様性センターでは、生物多様性に関する各種刊行物を発行し、関係各所に配布するほか、生物多様性に関連するイベントにおいても配布しています。また、ウェブサイト上からどなたでもご覧いただけます。

生物多様性センターからのお知らせなどを内容としています。

ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」

生物多様性についての理解の促進や、生物多様性ちば県戦略の普及啓発、生物多様性センターの取組に関する情報発信などを行うため、ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」を年4回発行しました。

巻頭の生物多様性に関する特集や、生物多様性の保全に向けた取組の紹介、千葉県に生育・生息している希少種や外来種の紹介、



ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」 No. 78-81

令和5年度発行 ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」	
発行日等	主な内容
No. 78 (6月30日)	<ul style="list-style-type: none">・トウキョウサンショウウオの受難・生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました・生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました・千葉県の希少種（マルガタゲンゴロウ）
No. 79 (9月30日)	<ul style="list-style-type: none">・『千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 2023年改訂版』が発行されました・ツヤハダゴマダラカミキリの特定外来生物への指定について・千葉県の外来種（オオオナモミ）
No. 80 (1月15日)	<ul style="list-style-type: none">・アライグマによる水辺の生態系への影響・生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました・千葉県の希少種（キンブナ）
No. 81 (3月31日)	<ul style="list-style-type: none">・千葉県の絶滅危惧種に迫る危機・企業と生物多様性セミナーを開催しました・房総のヒメコマツ観察会を開催しました・千葉県の外来種（コウライギギ）

生物多様性サテライトの設置

生物多様性サテライト事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、生物多様性の普及啓発を目的として平成23年度から、県内各地に展示スペース「生物多様性サテライト」の設置を行っています。

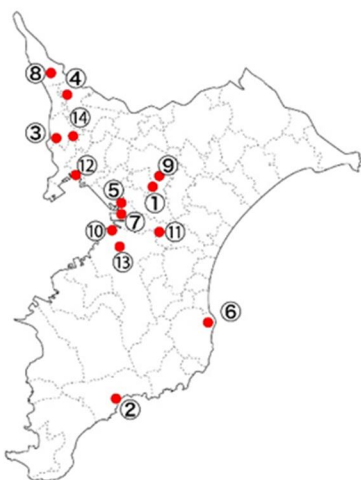
2 令和5年度の状況

13年目となる令和5年度は14カ所となりました。生物多様性の重要性についてパネル展示するとともに、ニュースレター『生命のにぎわいとつながり』や「生命のにぎわい調査団」入団申込書等を配布しました。

マブチモーター（株）設置のサテライト



- ① DIC 川村記念美術館（佐倉市）
- ② 鴨川シーワールド（鴨川市）
- ③ 千葉大学園芸学部（松戸市）
- ④ 東京大学柏キャンパス（柏市）
- ⑤ 東京情報大学（千葉市）
- ⑥ 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター（いすみ市）
- ⑦ NTT 東日本一南関東千葉事業部 富士見ビル（千葉市）
- ⑧ キッコーマン(株)もの知りしょうゆ館（野田市）
- ⑨ (株)フジクラ佐倉事業所（佐倉市）
- ⑩ AGC(株)千葉工場（市原市）
- ⑪ 日清紡ケミカル(株)土気事業所（千葉市）
- ⑫ ふなばし三番瀬環境学習館（船橋市）
- ⑬ 市原市役所（市原市）
- ⑭ マブチモーター（株）（松戸市）



大学との連携

大学との連携による生物多様性保全研究事業

1 連携協定の締結

平成 20 年 12 月 24 日に、県内にキャンパスや研究施設がある江戸川大学、千葉大学大学院園芸学研究科、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学の 6 大学と「生物多様性に関する千葉県と大学との連携に関する協定書」を締結しました。

また、県内では、外来生物や野生鳥獣による農作物等への被害が拡大しています。このような有害鳥獣による被害を抑制するためには、鳥獣被害問題の専門家からの助言や工学的な情報及び技術の共有が欠かせません。このため、効果的な防除・捕獲方法、野生生物の生息状況の把握や効率的な捕獲装置の開発など、生物多様性保全に関する幅広い課題に対応するために、平成 28 年 1 月 21 日に千葉科学大学及び千葉工業大学と新たに「自然保護に関する千葉県と大学との連携に関する協定」を締結しました。これら 8 大学との協定における連携項目としては以下 4 つを掲げています。

- ① 情報の共有
- ② モニタリングの実施
- ③ 共同研究
- ④ 人的交流・人材育成

令和 4 年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響等を受け、研究成果発表会は中止となり、令和 5 年度は、今後の実施方針の検討を行いました。

2 人的交流・人材育成

大正大学 1 名、千葉大学 1 名、東邦大学 1 名の計 3 名のインターンシップ実習生を受け入れました。

3 連絡会議

開催方法等に関する検討をメール開催での連絡会議で行いました。

企業との連携

生物多様性に関する企業との連携推進事業

農林水産業から製造業、サービス業まで全ての企業は、直接的または間接的に生物多様性を利用し、企業活動を行っています。そのため、生物多様性の急速な損失は、企業の存続にかかわる問題でもあります。同時に、企業活動は、生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の保全を推進するためには、企業による生物多様性への配慮が不可欠です。

このような理由から国内外において、多くの企業が生物多様性に関心を持ち、生物多様性の保全と持続可能な利用のために、企業独自の行動指針やガイドラインの策定、事業活動の中での取組、社会貢献としての取組等を始めるようになりました。

しかしながら、企業活動と生物多様性の関係は分かりづらく、社会での認知度も低いばかりか、保全の取組には地域ごとの対応が必要なため、企業にとっては、関心はあっても実際の取組にまで結びつけにくいのが現状です。

そのため千葉県では、企業の皆様に、千葉県内の生物多様性に関する情報や、先進的な企業による取組事例等を共有するための「企業と生物多様性セミナー」を、(一社)千葉県環境保全協議会と(一社)千葉県経済協議会との共催で、平成21年度から開催しています。

令和5年度は下記のとおり開催しました。

日時・場所	令和5年度開催の第26回企業セミナーの内容
令和6年 2月21日(水) 千葉県立中央博物館講堂 (32名参加)	テーマ:「自然共生サイト」の認定～活用 講演:「NEC我孫子事業場での生物多様性保全活動:自然共生サイトの一事例として」 NEC環境・品質統括部プロフェッショナル 金成 かほる氏 「OECM100か所プロジェクト～災害に強い地域づくりに向けて～」 損害保険ジャパン株式会社 経営企画部サステナビリティ推進グループ リーダー 加藤 拓氏 報告:「千葉県の外来昆虫について」 千葉県生物多様性センター 大島 健夫

さまざまな連携活動等

多様な主体との連携

1 自然系調査研究機関連絡会議

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、国や地方自治体（主に都道府県）で自然系（自然環境保全、野生動植物保全の分野等）の調査研究を行っている機関が、相互の情報交換、情報共有を促進し、ネットワークの強化を図り、科学的情報に基づく自然保護施策の推進に寄与することを目的として平成 10 年 11 月に発足しました。事務局は山梨県富士吉田市にある環境省自然環境局生物多様性センターで、千葉県では生物多様性センターと中央博物館が、平成 20 年度から加入しています。

この会議は年 1 回・10～11 月に、研究発表会（1 日；口頭・ポスター）と連絡会議（半日）、施設見学・野外巡検（半日）を組み合わせ開催されており、平成 20 年以來ほぼ毎年、センターと中央博物館の職員が参加しています。

令和 5 年度は、11 月 2 日（木）～3 日（金・祝）に、兵庫県立人と自然の博物館が開催機関となって、同博物館を会場に、現地及び webex によるハイブリッド開催となりました。センターからは千葉県レッドデータブックの担当者が「千葉県レッドデータブック植物・菌類編 2023 年改訂版から見たこと」と題してポスター発表を行いました。

第 26 回 NORNAC 調査研究・活動事例発表会

日時：令和 5 年 11 月 2 日（木）、3 日（金・祝）

場所：兵庫県立人と自然の博物館 大セミナー室（兵庫県三田市）

ポスター発表：千葉県レッドデータブック植物・菌類編 2023 年改訂版から見たこと

演者：千葉県生物多様性センター 下稲葉さやか



研究発表会・口頭発表の様子



研究発表会・ポスター発表の様子

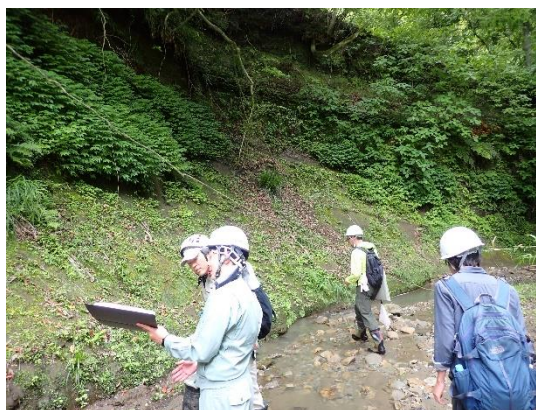
開発事業の指導

開発事業において生物多様性に配慮した立地選定や土地利用が行われるよう、レッドリスト（レッドデータブック）の定期的な改訂を行っています。レッドリストは、生物多様性センターのウェブサイトからダウンロードすることができ、事業者を始めとする関係者にも利用していただいています。また、事業者の指導に当たっては、生物多様性地理情報システムを活用しています。

さらに、千葉県自然環境保全条例に基づく自然環境保全協定の締結に当たって、生物学や保全生態学に関する専門的な知見をもとに事業者の指導を行っています。具体的には、事業計画地における自然環境調査の方法、調査結果の取りまとめ及び環境保全措置等について、指導を行っています。また、自然公園内で開発行為に伴って実施される自然環境調査についても、同様の指導を行っています。

調査項目は、維管束植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類等の種組成や生育・生息状況の把握や、植物群落の組成・構造・分布状況の把握、景観の把握等です。

また、現地調査を実施して、事業者が行った調査結果の確認や環境保全措置の検証等も実施しています。



開発指導に係る現地調査の様子

III

令和5年度 他機関への
支援活動・研究業績等のまとめ

○職員

令和5年4月～令和6年3月における職員（6名）及び会計年度任用職員（3名）。（兼）は中央博物館との兼務、（任）は任期付職員。

主 幹 小野知樹
副主査 西川歩美
副主査 下稲葉さやか（兼）
副主査 今津健志（任）
技 師 村井貴幸
主 事 小林遥香
加賀山翔一
大島健夫
日置克三

○他機関への支援活動

・講演・講座講師・観察会講師等（16件）

2023.5.19 令和5年度千葉県自然公園指導員及び自然公園指導員研修会「生物多様性について～外来種に係る法令改正等～」(千葉県立中央博物館) 講演, 村井貴幸, 26名
2023.6.27 御宿町「令和5年度御宿町自然観察会」(御宿町高山田) 観察会講師, 村井貴幸/小林遥香/大島健夫, 40名
2023.7.3 大多喜西小学校「生きものを守るために千葉県の希少種」(大多喜西小学校) 観察会事前学習講師, 西川歩美, 17名
2023.7.10 大多喜西小学校「自然観察会」(大多喜西小学校) 観察会講師, 西川歩美/大島健夫, 19名
2023.7.23 白井市西白井複合センター「生物多様性と外来生物を学ぼう」(西白井複合センター) 講演, 西川歩美, 15名
2023.8.7 鹿島川土地改良区「自然環境調査(田んぼの生き物調査) 指導」(佐倉市飯重) 観察会講師, 今津健志, 23名
2023.8.29 茂原市「令和5年度茂原市自然観察会」(茂原市) 観察会講師, 村井貴幸/加賀山翔一/大島健夫, 15名
2023.8.7 印旛沼土地改良区「自然環境調査(田んぼの生き物調査) 指導」(佐倉市) 観察会講師,

今津健志, 27名

2023.8.26 手賀沼水生生物研究会「第10回全国タナゴサミット in 手賀沼『千葉県のミヤコタナゴ生息状況と外来種問題について』」(NEC我孫子クラブ) 講演, 加賀山翔一, 108名
2023.9.28 柏土木事務所「外来種について」(柏土木事務所) 講師派遣, 加賀山翔一, 15名
2023.10.6 令和5年度生物多様性に関する市町村職員研修会「生物多様性地域戦略策定の手引きの改定について」(千葉県立中央博物館) 講演, 西川歩美, 37名
2023.10.6 令和5年度生物多様性に関する市町村職員研修会「千葉県レッドデータブック植物・菌類編2023年改訂版について」(千葉県立中央博物館) 講演, 下稲葉さやか, 37名
2023.10.6 令和5年度生物多様性に関する市町村職員研修会「外来生物法に係る直近の動向について(アカミミガメ、カミキリムシ類ほか)」(千葉県立中央博物館) 講演, 村井貴幸, 37名
2023.10.26 船橋市「船橋エコカレッジ『野生生物について』」(船橋市役所) 講演, 村井貴幸, 30名
2023.11.21 船橋市「船橋エコカレッジ『自然共生社会を目指して』」(船橋市役所) 講演, 小野知樹, 33名
2024.1.9 佐倉市「佐倉市民カレッジ『特定外来生物の現状と課題について』」(佐倉市立中央公民館) 講演, 今津健志, 56名
2024.1.14 四街道メダカの会「四街道にもアライグマがやってきた。外来生物って何、何が問題なの?『千葉県の外来生物と対策』」(四街道市文化センター) 講演, 大島健夫, 100名
2024.1.15 印旛・手賀保全協議会勉強会「県におけるナガエツルノゲイトウ等防除に係る取組について」(千葉県教育会館) 講演, 小野知樹, 77名
2024.2.21 第26回企業と生物多様性セミナー「千葉県の外来昆虫について」(千葉県立中央博物館) 講演, 大島健夫, 32名
2024.2.27 令和5年度外来水生植物対策講習会

「外来水生植物について」(海匠農業事務所) 講演. 下稲葉さやか. 23 名

2024.3.2 令和 5 年度生命のにぎわい調査フォーラム「千葉県レッドデータブック植物・菌類編 2023 年改訂版について」(千葉県立中央博物館) 講演. 下稲葉さやか. 51 名

2024.3.2 令和 5 年度生命のにぎわい調査フォーラム「外来種をめぐる近年のトピック」(千葉県立中央博物館) 講演. 村井貴幸. 51 名

2024.3.2 令和 5 年度生命のにぎわい調査フォーラム「生き物調査の結果報告」(千葉県立中央博物館) 講演. 加賀山翔一. 51 名

2024.3.5 令和 5 年度外来水生植物対策講習会「外来水生植物について」(長生合同庁舎) 講演. 下稲葉さやか. 24 名

2024.3.7 令和 5 年度外来水生植物対策講習会「外来水生植物について」(君津合同庁舎) 講演. 下稲葉さやか. 29 名

2024.3.12 令和 5 年度外来水生植物対策講習会「外来水生植物について」(手賀沼土地改良区) 講演. 下稲葉さやか. 33 名

2024.3.18 日本電気株式会社我孫子事業場「2023 年度生物多様性ダイアログ」(NEC 我孫子事業場) 有識者コメント. 加賀山翔一. 15 名

○情報発信

・展示等による情報発信 (11 件)

2023.6.4 いちかわ環境フェア 2023 (市川市) 於：ニッケコルトンプラザ

2023.6.9～6.14 令和 5 年度環境パネル展 (船橋市) 於：船橋駅前総合窓口センター

2023.6.15～6.21 令和 5 年度環境パネル展 (船橋市) 於：船橋市中央図書館

2023.6.10 第 8 回いちほら環境フェスタ(市原市) 於：アリオ市原サンシャインコート

2023.6.24 第 26 回ふなばし環境フェア(船橋市環境フェア実行委員会) 於：ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館

2023.10.3～10.13 第 15 回かまがや環境フェア

(鎌ヶ谷市) 於：鎌ヶ谷市役所

2023.10.15 エコメッセ 2023 in ちば (エコメッセちば実行委員会) 於：幕張メッセ国際会議場

2023.11.3 自然誌フェスターみんなで楽しむ千葉の自然と歴史ー (千葉県立中央博物館) 於：千葉県立中央博物館

2023.1.19～1.31 第 22 回白井環境フォーラム(白井市) 於：白井市役所

・マスコミを通じての情報発信 (10 件)

2023.5.17 テレビ朝日. スーパーJ チャンネル. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.5.17 フジテレビ. News Live It!. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.5.17 NHK. 首都圏ネットワーク. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.5.17 日本テレビ. News every.. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.5.17 千葉テレビ放送. news チバ. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.5.30 ケーブルネット 296. 296 ニュース. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.6.1 千葉日報. 千葉日報. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.6.1 千葉日報. 千葉日報. カミツキガメ、ワニガメ拾得物 (小野知樹)

2023.8.3 朝日新聞. 朝日新聞. 県レッドデータブック植物・菌類編改訂 (小野知樹)

2023.8.18 テレビ朝日. グッド・モーニング. カミツキガメ防除事業 (小野知樹/今津健志)

2023.10.19 NHK. NHK ニュース. ナガエツルノゲイトウ全県調査 (小野知樹)

○研究業績等

・西川歩美

教育普及書

西川歩美/村井貴幸. 2024. 千葉県の絶滅危惧種に迫る危機 (生物多様性ちばニュースレター)

81:1-2. 千葉県自然保護課.

両棲類学会報 2023(2) : 151-164.

・下稲葉さやか

研究発表

下稲葉さやか. 2023. 千葉県レッドデータブック植物・菌類編 2023 年改訂版から見えたこと. 自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC26). 兵庫県立人と自然の博物館 (三田市)

教育普及書

下稲葉さやか. 2023. 生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 78:3-4. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2023. 『千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック植物・菌類編 2023 年改訂版』が発行されました (生物多様性ちばニュースレター) 79:1-2. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか/村井貴幸/加賀山翔一. 2024. アライグマによる水辺の生態系への影響 (生物多様性ちばニュースレター) 80:1-2. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2024. 生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 80:3-4. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2024. 行政ニュース③『千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 2023 年改訂版』の発行について (会報) 106:13-14. 一般社団法人千葉県環境保全協議会

・今津健志

学術論文・学術書

大島健夫・加賀山翔一・今津健志・勝又紳一郎・栗田隆気. 2023. 千葉市におけるアフリカツメガエルの初記録. 爬虫両棲類学会報 2023(1) : 83-85.

加賀山翔一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫・對馬浩二・五味真人・今津健志・小賀野大一. 2023. 長期標識再捕獲調査から探る外来カメ類 2 種の個体群動態と種間相互作用. 爬虫

・村井貴幸

教育普及書

村井貴幸/大島健夫. 2023. ツヤハダゴマダラカミキリの特定外来生物への指定について (生物多様性ちばニュースレター) 79:3-4. 千葉県自然保護課.

村井貴幸. 2023. 千葉県の外来種「オオオナモミ」 (生物多様性ちばニュースレター) 79:4. 千葉県自然保護課.

下稲葉さやか/村井貴幸/加賀山翔一. 2024. アライグマによる水辺の生態系への影響 (生物多様性ちばニュースレター) 80:1-2. 千葉県自然保護課

西川歩美/村井貴幸. 2024. 千葉県の絶滅危惧種に迫る危機 (生物多様性ちばニュースレター) 81:1-2. 千葉県自然保護課.

村井貴幸. 2024. 房総のヒメコマツ観察会を開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 81:4. 千葉県自然保護課.

委員等

令和 5 年度御宿町ミヤコタナゴ保護委員会に出席
令和 5 年度茂原市ミヤコタナゴ保護協議会 助言者
令和 5 年度ミヤコタナゴ保護増殖事業検討会 関係機関

首都圏連合協議会「クビアカツヤカミキリによる被害の防止に関する検討会」委員

・加賀山翔一

学術論文・学術書

Kagayama, S. and T. Oshima. 2023. Current status evaluation of an endangered freshwater bagrid catfish using species distribution modeling in Chiba Prefecture, Japan. Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology, 34(2) : 47-56.

後藤康人・野田英樹・加賀山翔一. 2023. 庶物類纂にみる江戸時代前期から中期の日本産カメ類. 爬虫両棲類学会報 2023(1) : 62-66.

大島健夫・加賀山翔一・今津健志・勝又紳一郎・栗田隆気. 2023. 千葉市におけるアフリカツメガエルの初記録. 爬虫両棲類学会報 2023(1):83-85.

加賀山翔一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫・對馬浩二・五味真人・今津健志・小賀野大一. 2023. 長期標識再捕獲調査から探る外来カメ類 2 種の個体群動態と種間相互作用. 爬虫両棲類学会報 2023(2):151-164.

加賀山翔一・大島健夫・勝又紳一郎. 2023. ゴイサギによるアフリカツメガエルの捕食事例. 爬虫両棲類学会報 2023(2):208-210.

研究発表

小賀野大一・加賀山翔一. 2023. 房総丘陵におけるモリアオガエルの産卵場. 日本爬虫両棲類学会第 62 回大会. 東邦大学 (習志野市)

後藤康人・西堀智子・野田英樹・加賀山翔一. 2023. 文献資料によるミノガメ (蓑亀) の検証. 日本爬虫両棲類学会第 62 回大会. 東邦大学 (習志野市)

教育普及書

加賀山翔一. 2023. トウキョウサンショウウオの受難 (生物多様性ちばニュースレター) 78:1-2. 千葉県自然保護課.

下稲葉さやか／村井貴幸／加賀山翔一. 2024. アライグマによる水辺の生態系への影響 (生物多様性ちばニュースレター) 80:1-2. 千葉県自然保護課

加賀山翔一. 2024. 千葉県の外来種「コウライギギ」. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 81:4. 千葉県自然保護課.

・大島健夫

学術論文・学術書

Kagayama, S. and T. Oshima. 2023. Current status evaluation of an endangered freshwater bagrid catfish using species distribution modeling in Chiba Prefecture, Japan. Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology, 34(2):47-56.

大島健夫・加賀山翔一・今津健志・勝又紳一郎・栗田隆気. 2023. 千葉市におけるアフリカツメガエルの初記録. 爬虫両棲類学会報 2023(1):83-85.

加賀山翔一・大島健夫・勝又紳一郎. 2023. ゴイサギによるアフリカツメガエルの捕食事例. 爬虫両棲類学会報 2023(2):208-210.

学術報告書

齊藤明子・尾崎煙雄・伴光哲・西内李佳・鈴木勝・大島健夫・樽宗一朗. 2024. 生態園の昆虫-2020~2023 年の記録-(千葉県立中央博物館研究報告特別号 12 生態園の自然誌II-開園 35 年の記録-) 12:51-109

教育普及書

大島健夫. 2023. 堂谷津における里山モニタリング調査 (堂谷津の里 谷当里山計画の 10 年) 61-63. NPO 法人バランス 21.

大島健夫. 2023. 千葉県の希少種「マルガタゲンゴロウ」 (生物多様性ちばニュースレター) 78:4. 千葉県自然保護課

村井貴幸／大島健夫. 2023. ツヤハダゴマダラカミキリの特定期外来生物への指定について (生物多様性ちばニュースレター) 79:3-4. 千葉県自然保護課

大島健夫. 2024. 企業と生物多様性セミナーを開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 81:3. 千葉県自然保護課



上：生物多様性センター賞受賞作品
下：大島健夫賞受賞作品

千葉県生物多様性センター 年報16

令和6年6月発行

発行 千葉県環境生活部自然保護課

編集 千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 (県立中央博物館内)

電話：043-265-3601 ファクシミリ：043-265-3615

URL <https://www.bdcchiba.jp>

